

石心会グループ

医療法人財団 石心会
社会福祉法人 石心福祉会
医療法人社団 東京石心会

編集 石心会グループ

発行人：石井暎禎 編集長：辻田征男 副編集長：高本哲男

〒212-0013 川崎市幸区堀川町580 ソリッドスクエア東館4階

TEL.044-511-2266 (代) FAX.044-540-1135 <http://www.sekisinkai.or.jp>

石心会 BULLETIN~ 季刊

海燕

うみつばめ

No.43 2009.10.28

石心会が「社会医療法人」に 認定されました!!

特定医療法人財団 石心会

理事長 石井
暎禎

はじめに

医療法人財団石心会は、国の社会保障審議会の審議を経て、厚生労働省の認定を受け、本年11月1日付けで社会医療法人として出発します。以後、正式な法人の名称は「社会医療法人財団 石心会」となります。

これは、昭和48年に法人が設立されて以来、最も重要な出来事の一つと言って過言ではありません。

社会医療法人制度は、去年の4月に実質的な出発をしましたが、当法人が認定されたのは全国で64番目、複数の都道府県にまたがる、いわゆる厚生労働大臣管轄の医療法人としては全国で2番目の認定になります。社会医療法人になるには、公益医療を担う他、厳密な同族制限や、透明性のある医療経営が求められる一方で税制上、医療保険収入に対しては非課税、固定資産税や不動産取得税・登録免許税に関しても非課税にするという恩典が付与されます。

この恩典の経営基盤に与える影響は多大なるものがあります。ここに至り、もう一度社会医療法人とはいかなるものかについて解説しておきたいと思います。



社会医療法人制度に込められた目的と意義

国や地方自治体の財政が急激に悪化する中で自治体病院の医療崩壊が始まり、もはや、持続的な地域医療を担えなくなっている状況下であって、五事業（救急医療・災害時における医療・僻地の医療・周産期医療・小児医療）といった医療基盤を経営体力のある民間病院に担わせていきたいという国の強い意思からこの制度が発足しました。又、経営感覚に乏しいとされる自治体病院の受け皿として社会医療法人に指定管理者として経営を担う事を国が期待しているのです。

その様な位置づけを持つ社会医療法人は、今後、国や自治体の医療政策上、公的医療機関と同じ扱いを受けることになります。

本誌タイトル『海燕』は、M.ゴリキーの散文集『海燕の歌』(1901)に由来しています。その大意は以下のとおりであり、石心会のイノベーションマインドの象徴として採用しました。

……暗鬱な雲がたれこめ、雷鳴が轟く空と海、戸惑い騒ぐばかりの鵜らの群れを尻目に、

海燕は激しく飛び交い、暗雲と雷鳴を切り裂いて一直線に飛翔する。

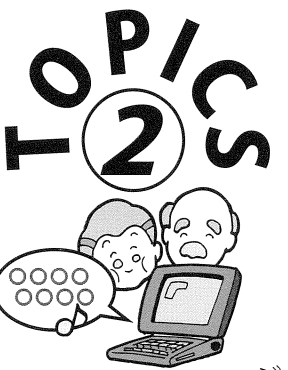


新病院ニュース《川崎幸病院》

川崎幸病院 新築移転工事を担当する工事業者が決定しました。

- ◆ 建築工事 (株)鹿島建設
- ◆ 電気工事 (株)東光電気工事
- ◆ 給排水衛生・空調工事 (株)大気社
- ◆ 工事監理は(株)山下設計が行います。

なお、着工は11月初旬を予定しており、当初予定よりは1月ほど遅れておりますが、完成は予定どおり2011年12月、病院開院は2012年4月となります。



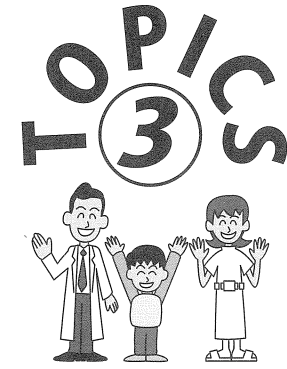
川崎幸病院ホームページ(HP)、 『音声情報伝達サービス』を導入 ～HPのバリアフリー化をすすめる～

8月、川崎幸病院のホームページ(以下、HP)に『音声情報伝達サービス』が導入されました。このシステムはWeb上の文章をコンピュータの合成音声を読み上げるもので、川崎幸病院のホームページでは病院名称などのトップ部分、病院理念、トピックスなどを女性の声が伝えてくれます。

このシステムの導入を担当した原田電子カルテ開発室長は「様々な医療・健康情報が医療機関やマスコミのHPを通じて得られる時代となりましたが、こうした中、自分の命に関わる情報でさえ十分に得ることが出来ない人たちの中に視覚障害者がいます。高齢化の進

行もあって、今やその数は、文字の見えづらい人を加えると三千万人に達すると言われています。そういう意味で、この『音声情報伝達サービス』の導入は、HPにおけるバリアフリー化の試みの一つでもあり、今後は緊急情報、例えば、新型インフルエンザについての最新情報などもこの音声配信システムによって届けていきたいと考えています」と語ります。

企業のHPでもまだめづらしいこの『音声情報伝達サービス』、いち早く病院HPに導入した石心会グループと川崎幸病院の試みは医療業界でも話題を集めそうです。



川崎幸病院中原分院、 地域浸透を目指して「医療祭」開催

★同時開催：未来のドクターを育てる「キッズセミナー」★

8月2日(日)、川崎幸病院 中原分院(川崎市中原区)で「医療祭」(川崎幸病院中原分院・川崎幸病院共催)が開催されました。

「医療祭」は同院が地域の医療機関として住民により浸透することを目的として企画されたもので、開催当日には、救急救命講習や健康相談、各種医療機器模擬体験など盛りだくさんのプログラムに約200名の来場者が詰めかけました。

来場者の一人で同院近くに住むという30歳代の女性は「今までこの病院で受診したことがありませんでしたが、今日のイベントで親しみが持て、また、どんな病気を診てくれるのかについてもよく分かりました。具合が悪いときには受診したいと思います」と話していました。中原分院の若林院長は「外来患者を増加させるには病院のことをよく知ってもらうのが一番。幸い、来場者には大変好評で目的を達したものと思います。さらに、行事開催に向けて企画から運営ま

医療祭



“くすり屋さんへようこそ”
調剤体験する親子

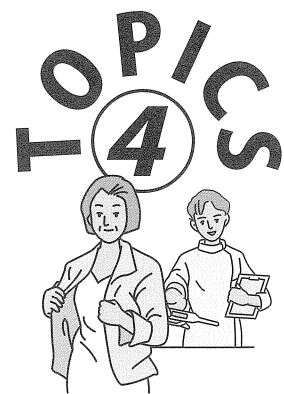
キッズセミナー



“ちびっ子ドクター、
ただいま、執刀中”

この企画を推進した川崎幸病院副院長の関川消化器病センター長は「外科医療は医療を支える大きな柱の一つですが、その担い手となるべき外科医へのなり手が近年減少傾向にあります。今回のイベントに参加した子供たちの一人でも多くが医療に関心を持ってくれ、さらには“将来外科医になってみたい”と思ってくれたら望外の喜びです」と語ります。

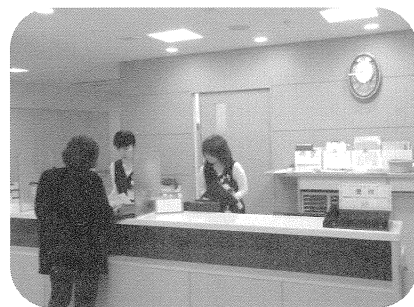
この医療祭、地域住民にも好評なことから、来年も開催する予定とのことです。



予防医学の拠点としてフル稼働 さやま総合クリニック 「健診センター」

今年4月にオープンした、さやま総合クリニック「健診センター」。クリニック4階の989,2平方メートルという広いスペースに最新の医療検査機器を備えたこの施設は、オープン以来、毎月約1,300人が受診、地域・職域に対する予防医学の提供拠点としてフル稼働しています。同施設は基本方針に「医学的根拠にもとづく健診」「医療との連携」とならんで「快適さの提供」を掲げ、レベルの高い医療サービスはもとより、受診アメニティにも配慮、受診者満足度を高める工夫と努力が随所になされています。

特に、婦人科健診部門に設けられた「さくらホール」は、乳癌検診と子宮癌検診が同時にできる女性健診専用コーナーで、女性のプライバシーに配慮したフロア設計と心安らぐインテリアで受診者に好評を得ています。また、毎週火曜日は、受診者もスタッフも女性のみ（一部医師・技師は除く）の「レディースデー」となっており、これも一般検診施設での受診には気後れする女性受診者に嬉しい配慮となっています。



接客マナーも徹底（受付）



女性健診専用スペース「さくらホール」



私たちが対応します。（さくらホール）



ゆったりとした
待合スペース



落ち着いた色調のロビー

さやま総合クリニックの河村院長、菅野副院長（健診担当）、大塚医長は「これまで、狭山市内には大きな健診センターはなく、また狭山市乳癌・子宮癌検診が同時に受診できる医療施設もありませんでした。

狭山市検診は通年受診ではなく、受診の期間が限定され、医療機関の混雑で、毎年多数の検診受診できない市民がおり、十分な地域予防医療ができていませんでした。そのような環境の中で、高度な医療機器を駆使し、質の高い医療内容を実現し、かつ市民が気軽に特定健診、企業健診、狭山市がん検診が受診できる施設として当センターは誕生しました。

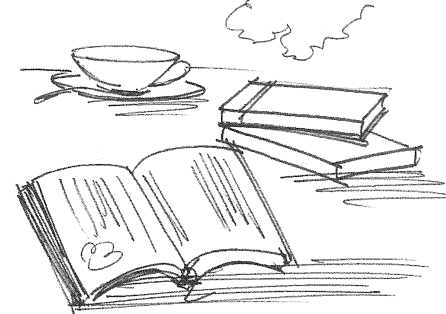
また女性受診者に配慮した女性健診専用コーナー“さくらホール”を併設したのもこの施設の特徴です。私達は、当施設が誕生したことによって、地域・職域の予防医学に大いに貢献できることと確信しています」と語っています。



最新型マンモグラフィ
（さくらホール）

読書のすすめ

本部事務局長 辻田 征男



誰でもわかる 「重職心得箇条」

佐藤 一斎（中村 安宏 解説）

著者佐藤一斎は江戸後期の儒学者である。その一生については、興味深いものがあるがここでは、触れないでおく。後年門下から渡辺華山、佐久間象山、横井小楠らの俊英を出していることから見ても当時超一流の人物であった事が分かる。

私がこの本の存在を知ったのは、小泉元首相が田中真紀子以下小泉内閣の閣僚全員にこの本を読ませたという記事を見たからである。当時、まだ小泉ファンであった私は興味を引かれて手にとることになった。後に小泉さんには失望したが、昨今の政治家たちにここで書かれている事を当てはめると実に面白く今でも手放せない座右の書となっている。

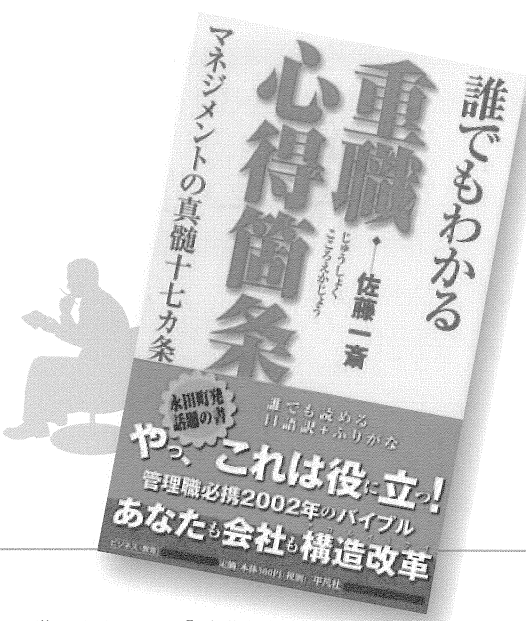
この本のサブタイトルは「マネジメントの真髄 17カ条」であり、出版社は次の様に書いて宣伝している。
「部下を好き嫌いせずに使う事」など、人を使う立場の人間の心得が、わずか17条で書き尽くされている。これ以上のものは必要なし。日本全国管理職必読の書」。

私がわが意を得たりと思う部分は以下の箇条である。

第六条 重職は渦中にのみこまれてはならない。

第七条 重職は忙しいと言ってはならない。

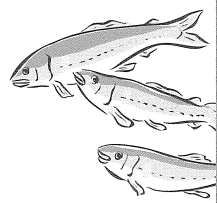
冷静に物事を判断するには重職は熱くなつてはいけないということである。又、そのために自分の時間を作るのが重職の技であり義務なのである。



誰でもわかる「重職心得箇条」
平凡社 価格：¥525（税込）

仕事は一生懸命、 遊びも一生懸命

狭山病院 地域医療連携室係長 平沼昌弘



趣味 探訪

物事の達成には、明確な目標と具体的なプロセス、そして動機づけが必要であると言われています。私はこの考え方に則って、仕事上の未経験な分野に取り組む際には、必要な知識を習得するための手段の一つとして資格取得を利用しております。多くが試験を伴うため、嫌でも勉強する訳で知識の習得にはうってつけの方法です。加えて、妻に受験予告をします。これは努力を怠った際の代償（不合格、妻からの信用失墜）が大きいため、集中力を保つには特に有効な手段となります。

このようにして石心会入職後、取得した資格は15（診療情報管理士他、下記で参照）を数えます。（世に言う「資格マニア」のうちの1人、という説もありますが）

私は、埼玉県西部の奥武蔵という大自然の中で生まれ育ちました。遊びと言えば山遊びか溪流釣り、子供の頃から大人に混じって竿を握っていました。それから時は流れ、社会人になってからは職場の同僚や上司、結婚後は妻も加わり、釣りのジャンルも増え、気が付けば源流から海面まで毎週のように魚を求めて釣り場に向かっています。（主な釣り場は右ページ下をご参照）特に鮎の友釣りは以前から興味は抱いてものの、とにかく難しいという先入観で敬遠していましたが、結婚後、妻の親族にスゴ腕の釣師が2人（1人はヘラブナの全国大会決勝進出者、1人はいわゆる地元の名手と呼ばれる鮎師）いることがわかり、さっそく鮎師の門を叩くこととなりました。

お蔭様で、2年程で人並み？に鮎が掛けられる程度にまで成長させてもらいました。持つべきものは良き師匠です。

こうして、徐々に鮎の釣果も上がり、自分の腕前に酔いしれていた私でしたが、妻から一言、“自己満足しないで、大会に出てもらえなさい”と檄を飛ばされ、チャレンジ魂が鼓動を始めました。

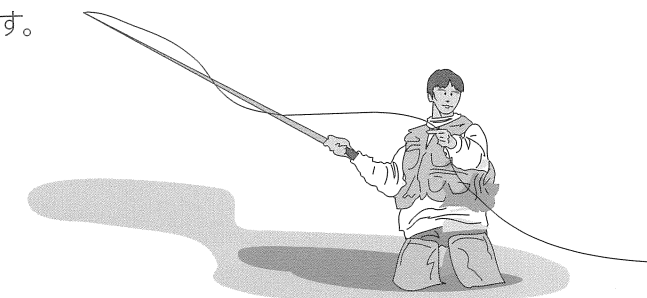
どうせ挑戦するなら、デカイ大会。
“よし！「鮎の友釣り全国大会」（大手釣具メーカー主催。別名“鮎マスターズ”）に挑戦だ！”



こうなると、大会に向けて研鑽あるのみとなるわけで、当日のあらゆる状況変化（天候、水温、水量、石、コケ、ポイント、活性等）を想定して練習に励むようになります。しかし、さすがにこの大会、名うての達人も参加してくるだけあってレベルが高い。

現時点では、2008年の南関東地区大会で予選通過、ブロック大会出場者決定戦出場、が私の最高到達点。といっても、こうなればブロック大会で優勝し、いずれは全国のスゴ腕達と渡り合いたいと私の心の灯は熱く燃えています。

そんな訳で、大会を通じて目標設定し、技術（腕前）の向上に励む釣りですが、実は、仕事においても、狭山病院や登録医の先生方、他の病院の職員の皆さんとの釣りを通じた交流、情報交換という形でも活かされており、その点では文武両道、いや、一挙兩得というわけです。グループ職員の皆さんの中にも同好の士がいっぱいいると存じます。是非、一度お手合わせをお願いします。



以前、上司から“仕事も遊びも一生懸命に”という言葉をいただきました。仕事も趣味も目標設定することでチャレンジ精神が喚起され、向上（上達）への意欲が燃え上がるのだ。というのが自分なりの解釈です。

【入職後に取得した資格】（順不同）

診療情報管理士、個人情報保護士、CFMJ（認定ファシリティマネジャー）、防火管理者（甲種）、危険物取扱者（乙種）、消防設備士（乙種）、消防設備点検資格者（2種）、CE受入側保安責任者、安全運転管理者、ボイラー取扱者、普通第1種圧力容器取扱作業主任者、有機溶剤作業主任者、特別管理産業廃棄物管理資格者、アマチュア無線技士（4級）、環境社会検定試験合格

【釣行データ】

シーズン	対象魚	釣法（餌等）	ホームグラウンド	最大釣果
3月～10月	山女（溪流）	零釣法（川虫）	秋川（東京）、桂川本流（山梨）	26匹（1日）
6月～11月	鮎（中流）	友釣り（囮鮎）	秋川（東京）、中津川（神奈川）	37匹（半日）
4月～12月	黒鯛（堤防）	落とし込み（蟹）	沼津（静岡）、茅ヶ崎（神奈川）	2匹（半日）

※1月～3月：虹鱒管理釣場（東京奥多摩）

Music Salon

♪♪ ミュージックサロン ♪♪

さやま総合クリニック「第23回 ヘルシーコンサート」の模様をお伝えします。

～木管アンサンブルの豊かな音色～

さやま総合クリニック3階ピアノホールで開催される「ヘルシーコンサート」。第23回となる今回は、昭和音楽大学の器楽学科演奏家コースに在籍する将来のプロ演奏家ほか6人によるアンサンブル、題して「木管五重奏とピアノによるアンサンブルのタベ」です。ビゼー作曲「カメルン」「アラゴネーズ」や、ディズニー映画「ピノキオ」の挿入歌「星に願いを」など、ジャンルを超えた名曲の数々が、木管楽器特有の甘く優しい音色と息づかいによって奏でられていきます。会場窓から差し込むあかね色の夕陽の中、聴衆はあふれ出る音楽世界に憩いました。



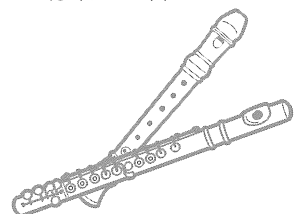
“星に願いを”

昭和音楽大学音楽学部ほかメンバーによるアンサンブル

出演：麻生 優希（フルート）
若山 健太（オーボエ）
渋谷 圭祐（クラリネット）
杉田 翔（ファゴット）
井上 智沙登（ホルン）
赤木 舞（ピアノ）

曲目：チャイコフスキー
「くるみ割り人形」より
行進曲、花のワルツ 他

聴衆：50名



※演奏家プロフィール

麻生 優希 ◆ 昭和音楽大学音楽学部器楽学科演奏家コース4年在学中。これまでにフルートを黒田隆、神田寛明、大田哲弘の各氏に、室内楽を黒田隆、大田茂の両氏に師事。

若山 健太 ◆ 12歳よりオーボエを始め、昭和音楽大学音楽学部器楽学科弦管打楽器コース4年在学中。オーボエを広田智之氏に、室内楽を大田茂、黒田隆、増村修次の各氏に師事。

渋谷 圭祐 ◆ 15歳よりクラリネットを始める。昭和音楽大学音楽学部器楽学科弦管打楽器コース4年在学中。クラリネットを堀川豊彦氏に、室内楽を大田茂、黒田隆の両氏に師事。

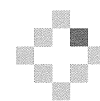
杉田 翔 ◆ ファゴットを17歳から始める。昭和音楽大学音楽学部器楽学科弦管打楽器コース4年在学中。ファゴットを山下介、大田茂の両氏に、室内楽を黒田隆、大田茂の両氏に師事。

井上智沙登 ◆ 中学よりホルンを始め、昭和音楽大学音楽学部器楽学科弦管打楽器コース4年在学中。ホルンを上原宏氏に、室内楽を大田茂、大倉滋夫、黒田隆の各氏に師事。

赤木 舞 ◆ 米国イーストマン音楽学院卒業、同大学院修士課程終了。帰国後、東京芸術大学大学院音楽研究科にてアートマネジメントを学び、博士号を取得。現在、昭和音楽大学助教。

☆ヘルシーコンサートのいわれ☆

2003年3月、狭山総合クリニックの院長に就任した青山医師（現狭山病院長）が、クリニックを診療の場としてだけでなく、地域の人たちの文化的な交流の場にしたいと考え、私財でピアノを購入して提供するとともに、毎週土曜日の午後からピアノ演奏を主体にした「ヘルシーコンサート」を開催することを決めました。ホームページにも紹介していますが、このピアノは世界最高峰といわれる「スタインウェイ アンド サンズ」のコンサート用グランドピアノで、2000年のショパンコンクールで圧倒的な実力で一位優勝した中国のピアニスト ユンディ・リ が練習用に愛用したものです。



石心会グループの活動(2009年7月～9月)

川崎幸病院

- 7月 4日 H20年度実績報告 & H21新年度目標発表会
- 7月19日 臨床研修病院合同セミナーin東京ビッグサイト(病院356施設/学生1,765名参加)
- 7月25日 納涼祭
- 8月 2日 ※中原分院医療祭開催に伴い、前日のリハーサルも含め、
中原分院スタッフと合同で多くの川崎幸病院スタッフが参加、応援しました。

- 8月26日 社会医療法人申請に関わる厚生労働省立入調査
- 9月 2日 医療監視
- 9月12日 うるおいコンサート
- 9月13日 第41回神奈川県病院協会女子バレーボール大会 3位入賞。
- 登録医向け勉強会
8月25日 『病態から考えた糖尿病治療の進め方』
講師：松葉医院 院長 / 松葉育郎
座長：副院長兼内科部長 / 沢 丞 参加者20名



写真は山崎監督(医師)と鈴木キャプテン(CE科)

- 出張講演(公開講座)
9月12日 『肺炎の発生とその予防について』 講師：川崎幸病院内科副部長 / 堀地直也
in 桜本二丁目町内会 参加者 35名
- 救急隊勉強会(市内、鶴見の救急隊員が参加されました)
9月16・17日 『脳外科搬送患者の症例発表と脳疾患について』 講師：脳神経外科 / 長谷川真作 参加者計18名
- 院内勉強会、講演会
7月23日 緩和ケアチーム主催『第5回緩和ケア院内勉強会』
講師：看護主任・緩和ケア認定看護師 / 菅原幸恵、外科医長 / 高橋保正
9月24日 緩和ケアチーム主催『第6回緩和ケア院内勉強会』 講師：外科医長 / 高橋保正
9月25・29日 放射線科主催『放射線被曝と防護についての勉強会』

川崎幸病院 中原分院

- うるおいコンサート
第9回 8月8日 いこいシルバーハーモニカバンド ハーモニカ演奏 参加者 24名
第10回 9月19日 ぜろさん合唱団(早稲田大学OB・OG)合唱 参加者 16名
- 院内勉強会
7月14日 『除細動器の取り扱いについて』日本光電株式会社 参加者 19名
7月30日、8月7日 『新型インフルエンザに関して』中外製薬株式会社 参加者延 31名
9月 2日・3日 『院内感染のイロハ』ファイザー株式会社 参加者延 25名
- 健康講座《公開講座》
第10回 7月11日 『あなたも家庭の救命士!』
講師：川崎幸病院EMT科 主任 / 大橋聖子(救急救命士) 参加者31名
第11回 8月22日 『すてきな笑顔の作り方』
講師：川崎幸病院リハビリテーション科 主任 / 大塚洋子(言語聴覚士) 参加者29名
第12回 9月12日 『医療・介護のことで困ったら!』
講師：川崎幸病院中原分院 医療相談科 / 太田さやか(社会福祉士) 参加者23名

狭山病院

- 6月15日～7月29日 入院患者さんへの満足度調査実施
- 7月17日 看護師復職支援セミナー(狭山病院) 参加者 8名
- 7月27日～8月6日 職員満足度調査実施
- 7月25日 納涼祭
- 8月 5日 石心会狭山研修棟竣工式
- 8月 7日 中途採用者向け防災訓練
- 8月26日 衆議院議員選挙不在者投票
- 8月27日 社会医療法人申請に関わる厚生労働省立入調査
- 9月4日～ 2階南・3階南・4階南病棟のトイレ改修工事開始





石心会グループの活動(2009年7月～9月)

狭山病院

- 9月4日 所沢労働基準監督署立入検査
- 9月14日～19日 2階南病棟ナースコール更新工事(PHS4台での運用)
- 9月20日 患者喫煙所移設及び患者用駐輪場整備
- 9月27日～29日 病院機能評価訪問審査受審
- 院内勉強会
 - 7月2日 『感染対策の基礎(標準予防策について)』 参加者 70名
 - 7月3日・10日 『血液製剤の取扱い〔使用～輸血過誤について〕』 参加者 96名
 - 7月21日 院内感染対策勉強会 参加者 71名
 - 7月29日、8月7日 MRI安全講習会 参加者 81名
 - 8月26日 診療報酬勉強会 参加者 101名
 - 9月9日 『感染対策の基礎(委託業者向け)』 参加者 52名
- 地域医療連携《公開カンファレンス》
 - 7月15日 『心臓血管手術における抗凝固療法』
講師:狭山病院心臓 血管外科 部長 / 木山 宏 参加者148名
 - 8月28日 『心房細動に対するupstream及びdownstream治療について』
講師:さいたま赤十字病院 循環器科 部長 / 新田 順一 参加者 151名
 - 9月4日 『透析患者の高齢化と在宅管理のポイント』
講師:聖隷佐倉市民病院 看護次長 / 内田 明子 参加者 151名

川崎幸クリニック

- 8月1日 糖尿病講座 参加者 6名
- 9月5日 糖尿病公開講座 『糖尿病の方のメンタルヘルス ～日々の悩み事を分かち合おう～』
講師:臨床心理士 / 稲富正治 参加者 8名
- 気功教室 講師:臨床心理士 / 稲富正治
 - 7月22日 参加者 7名
 - 8月19日 参加者 9名
 - 9月30日 参加者 13名
- 9月9日 クローバーの会 心理相談室公開講座(うつの人を支えるご家族対象) 参加者 2名
- 9月26日 院内研究発表会『子宮がんと子宮がん検診』 講演:鈴木浩基 医師

さやま総合
クリニック

- 7月2日 糖尿病教室『間食選びのポイント』 講師:管理栄養士 係長 / 蒲池 佑子 参加者 15名
- 9月3日 『外食・中食について』 講師:管理栄養士 係長 / 蒲池 佑子 参加者 15名
- 7月4日 健康教室『介護が必要になったら?』 講師:ソーシャルワーカー / 丹羽 隆子 参加者 10名

さいわい鹿島田
クリニック

- 8月31日 この日より、月水金のナイトフロアーを拡大
- 9月3日 院内勉強会開催『心電図の見方』(中外製薬協力)
- 9月24日 透析・外来合同避難訓練

さやま腎クリニック

- 9月17日 院内勉強会 T Vフォーラム上映会『CKD－MBDとビタミンD 静注療法』
講師:九州大学大学院 医学研究院病態機能内科学 助教 / 谷口 正智 先生

昭島腎クリニック

- 院内勉強会
 - 7月9日 『血液透析患者における皮膚掻痒症の改善～』 講師:鳥居薬品 参加者 24名
 - 7月23日 『日本透析医学会学術集会参加者報告会』 講師:学会参加者 参加者 28名
 - 8月13日 ビデオ研修『透析継続の差し控え～』 生死への医療者・患者・家族の共感・躊躇・闘い～
講師:第中外製薬 参加者 24名
- 9月28日・29日 透析患者ビデオ学習会『透析患者の食事管理』
 - *エネルギーを蓄えるための三大栄養素を考える
 - *なぜ食事管理が必要なのか……ミネラルについて 透析患者参加者 58名

アルファメディック・
クリニック

- 7月29日 消防訓練(川崎テックセンター共同防火管理協議会)参加

新緑会脳神経外科

- 9月10日 院内勉強会
演題・講師:『病院の言葉をわかりやすくする提案』 総務課 / 斎藤俊輔
『脳腫瘍について』 副院長 / 横田尚樹
『インシデントアクシデント報告』 院長 / 佐藤健吾 参加者 42名

立川介護老人
保健施設わかば

- 施設内勉強会
 - 7月15日 『よい介護とは』 参加者 34名
 - 9月16日 全老健大会、全デイケア大会報告 参加者 27名
- 8月9日 わかば納涼祭
- 9月20日 敬老会

オリーブ

- 7月1日 職員26名が普通救急救命講習を受講
- 7月からセンター方式認知症ケア勉強会を月1回定例実施
- 7月24日 川越少年刑務所から矯正事業への貢献について感謝状授与
- 7月25日 堀兼ふる里祭りで利用者10名と職員有志がソーラン節を披露
- 8月2日 オリーブ納涼祭 参加者 180名
- 9月13日 敬老会 参加者約 90名

狭山市入間川・
入間川東地域
包括支援センター

- 地域活動
 - 7月6日、8月3日、9月7日 入間川東地区民生委員、入間川地区民生委員との定例情報交換会
(狭山市社会福祉会館) 参加者延 85名
- 地域型認知症予防プログラム『脳力アップ教室』
 - 7月27日、8月3日・10日・31日、9月14日・28日 参加者延 107名
- 8月6日 『認知症サポーター養成講座』(精神障害者支援センター スペースきずな) 参加者 19名

立川市北部東
わかば地域
包括支援センター

- 男の料理教室 7月3日・12日、8月3日、9月4日・19日 参加者 延 107名
- 認知症予防教室 7月6日、8月22日 参加者 59名
- 介護ミニ相談会 7月11日・18日・22日 参加者 延 46名
- 7月24日 小地域ケア会議『訪問作業療法の活用方法について』 参加者 23名
- 9月7日 防犯フェア 参加者 50名
- 9月19日 利用者懇談会 参加者 28名

※ 9月15日 「医療法人社団 新緑会」が「医療法人社団 東京石心会」に名称変更しました。

